



テュートリアル課題 憂鬱な春

著者名	東京女子医科大学
雑誌名	テュートリアル課題
巻	2015
号	S6
発行年	2015-10-05
URL	http://doi.org/10.20780/00032576

2015年度 Segment. 6

課 題 No.3

課題名：憂鬱な春

課題作成者：耳鼻咽喉科学

草間 薫



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となる場合がありますのでご注意ください。

シート1

木村華子さんは42歳の女性で、夫とともに生花店を経営しています。仕事が忙しい時でも大好きな花の香りをかぐと、すがすがしい気分になり、仕事にもやりがいを感じています。

シート2

しかし、ここ数年、卒業式や送別会などで忙しくなる3月頃は華子さんにとっては憂鬱な季節になってしまいました。窓を開けたり外を歩いたりすると、鼻がむずむずして水のような鼻が垂れるためティッシュを手放せなくなってしまいます。室内では比較のおちついていますが、屋外はもちろんのこと仕事中もなるべくマスクをしています。

シート3

3月下旬ごろからくしゃみや鼻水がひどくなり、夜は鼻がつまって寝苦しく、翌朝はのどがいがらっぽくなってきてしまいました。その後、鼻水はだんだん黄色くなり、粘りが出てきて、のどにもまわるようになりました。額のあたりを中心とした頭痛もするようになったため、これでは仕事にもさしつかえと思い、病院へ行きました。

病院では、鼻の診察とにおいに関する検査を受けることになりました。

シート4

華子さんはさらに、血液検査と鼻・副鼻腔単純X線、鼻副鼻腔CT検査を受けました。

シート5

華子さんは抗菌薬と抗アレルギー剤の内服薬と、嗅覚障害の治療のための点鼻薬を使いはじめました。

屋外に出るときには、マスクだけではなく、帽子や眼鏡をかけることも勧められました。

治療をはじめると、鼻汁は減って色も薄くなり、ゴールデンウィークがあけた頃には、鼻のむずむずもなくなりました。